

指導資料

生徒指導 第71号

鹿児島県総合教育センター
平成30年4月発行

対象
校種

小学校 中学校 義務教育学校
高等学校 特別支援学校

比較用「学校楽しいーと」を効果的に活用したいじめ・不登校の未然防止と支援体制づくり

児童生徒の学校適応感を測る「学校楽しいーと」の定期的な実施及びアセスメントに基づき、いじめの早期発見・早期解決や不登校の未然防止に向けた指導・支援体制づくりについて事例を通して紹介する。

1 「学校楽しいーと」を児童生徒のアセスメントに生かす

学校は、全ての児童生徒が自己の能力を発揮し、楽しく通える学びの場でなければならない。しかしながら、いじめや不登校の未然防止や早期発見・早期解消といった対応は、本県の教育にとって喫緊の課題の一つとなっている。不登校は、学年が上がるにつれて増加傾向にあり、初期対応がとても大切である。

平成29年10月に改定された本県の「いじめ防止基本方針」には、いじめの早期発見の措置として、当センターが開発した「学校楽しいーと」、「SNSチェックシート」等の活用を図ることが明記されている。「学校楽しいーと」は、児童生徒の学校における「適応感」を測る質問紙であり、いじめについても実態を把握できる質問紙である。図1は、比較用「学校楽しいーと」のレーダーチャート（1回目）の例であり、相対的に低いポイント（ウィークポイント）は「弱み」や「不得意な面」、高いポイント（ストロングポイント）は「強み」や「得意とする面」を示す。一般的に教師は、ウィークポイントのみに着目し解決を図ろうとするが、むしろ、その生徒ができてしていると意識しているストロングポイン

トに着目した取組を行うことでウィークポイントへの効果的な支援につながり学校適応感が高まることになる。

図1は、5月に全学級で「学校楽しいーと」を実施した学校の、不登校傾向の中学1年C組女子生徒（Aさん）のレーダーチャートである。

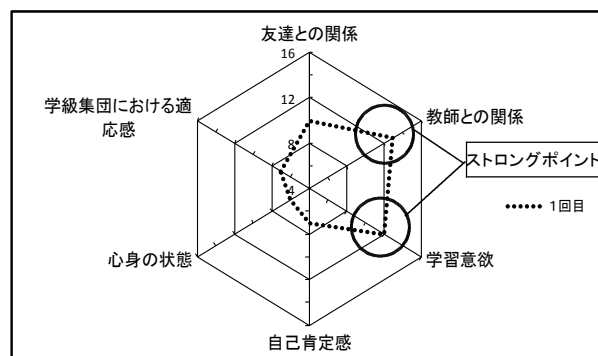


図1 比較用「学校楽しいーと」のレーダーチャート

レーダーチャートは、広がり大きいほど学校適応感が高いことを示すが、図1の状態は、6観点のバランスが大きく偏っており、ストロングポイントとして「教師との関係」、「学習意欲」を、ウィークポイントとして「学級集団における適応感」、「心身の状態」、「自己肯定感」を見取ることができる。下位項目（表1）を確認すると、いじめの項目の「友達から悪口を言われたり、無視されたりしてつらい思いをすることがある」を

「1」と回答していることから、「心身の状態」や「適応感」に影響を及ぼしていることが推測できる。

表1 「学校楽しいと」下位項目

い じ め	7	友達から物を隠されたり、暴力を振るわれたりしてつらい思いをすることがある。	3
	26	友達から悪口を言われたり、無視されたりしてつらい思いをすることがある。	1

2 「学校楽しいと」を活用したアセスメントと面談等の初期対応（例）

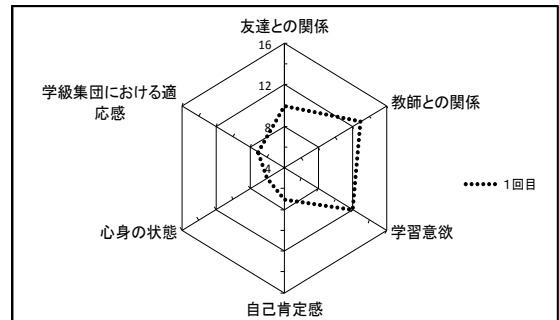
担任は、「学校楽しいと」のいじめの項目とレーダーチャートから不登校傾向のあるAさんの状態を次のように見立てた。

【5月の見立て】

いじめが原因で、「学級集団における適応感」、「心身の状態」、「自己肯定感」が低い傾向にあり、その結果、不登校傾向を引き起こしている。

「見立て」とは

質問紙の分析や面談等からどのような角度から切り込み、どのような経過が予想され、その後、どのようなになるだろうかといった見通しのこと。



【Aさんの「学校楽しいと」のレーダーチャート】

担任は、Aさんとの面談を実施し、不安を肯定的に受容し、共感的に理解することにした。いじめについては、本人から確認できるように心掛けた。

【不安を肯定的に理解する担任のAさんへの働き掛け】

担任：T 生徒：A

T：朝は、調子が悪そうだったけれど、今はどんな調子かな。

A：ん～。（黙）

T：あまり調子よくないみたいだね。

A：（うなずく）

T：それは、心配だね。何か気になることでもあるんじゃない。

よかったら一緒に解決していけたらと思うのだけれど。

A：（下を向いたまま沈黙）

T：うまく説明できないのかな。

A：（うなずいて沈黙）

T：では、Aさんが気になっていることを手紙に書いて、明日、先生に教えてくれる。

A：はい。

※ 「沈黙」もその生徒のメッセージとして捉え、いじめについて言及するような面談は適切な対応とは言えない。



翌日、Aさんは職員室に入るなり、担任にこっそりと手紙を渡してその場を立ち去った。

担任は、手紙からB組の3人の男子生徒から人前で名前を大声で呼ばれる等の嫌がらせを受け続けて嫌な思いをしていることを知り、B組の担任からの情報も得て、次のように対応した。

【不安を解消するための担任のAさんへの働き掛け】

担任：T 生徒：A

T：お手紙ありがとうございます。とってもつらかったね。先生も気付いてあげられなくてごめんなさい。

A：（少し笑顔でうなずく）

T：今日は、どうでしたか。

A：（少し困り顔）

T：まだ続いているんだね。

A：（うなずく）

T：その3人に指導して、今後、このようなことがないようにしたいと思っているけどどうかな。

A：（首を振る）

T：仕返しが怖い？

A：はい。

T：よし、分かった。他の先生方にも協力をもらって、そのような場面があった時に3人を直接指導するというのはどうかな。

その後、担任は、Aさんが嫌がらせを受けている場面を捉えて、当該男子生徒を指導し、Aさんの様子について経過観察を続けることにした。

3 「学校楽しいーと」による児童生徒の変容の確認及び取組内容等の修正

Aさんの担任は体育大会等が終わり生徒が落ち着いた10月初旬に、2回目の「学校楽しいーと」を実施した。Aさんの「学校楽しいーと」の結果は、図3・表2のとおりであった。

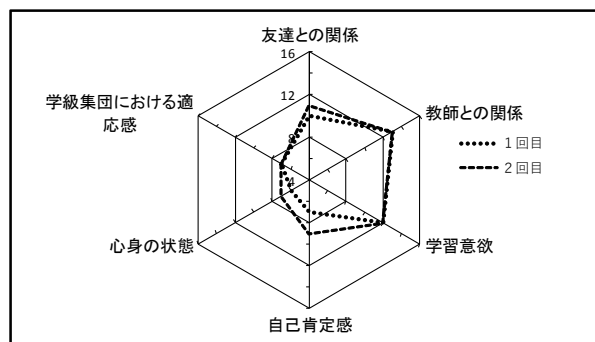


図3 比較用「学校楽しいーと」のレーダーチャート

表2 「学校楽しいーと」の下位項目

観点	質問	1回目	2回目
友達との関係	1 学校には、気軽に話せる友達がいる。	3	3
	8 学級には、気軽に会話ができたり、遊びに誘ってくれたりする友達がいる。	3	3
	14 学校には、自分の悩みや本当の気持ちを話せる友達がいる。	2	3
	20 自分が困っているときに助けてくれたり、協力してくれたりする友達がいる。	2	2
教師との関係	2 学校には、悩みや心配を相談できる先生がいる。	3	3
	9 学校には、自分のことを理解してくれる先生がいる。	3	3
	15 学校には、自分が間違いや失敗しても、きちんと話を聞いてくれる先生がいる。	3	3
	21 学校の先生たちは、自分に対してみんなと同じように公平に接していると思う。	4	4
学習意欲	5 授業中に「できた」「わかった」と感じることもある。	3	3
	12 授業中は、先生の話をよく聞いている。	3	4
	18 授業中、自分から進んで学習に取り組んでいる。	3	3
	24 学習した内容をきちんと理解するための、自分なりの学習の仕方がある。	3	2
自己肯定感	4 委員会活動や係(当番)活動での自分の仕事は、みんなの役に立っていると思う。	2	3
	11 学校行事の計画や準備をやり遂げたとき、「よくがんばったなあ」「よくやったなあ」と思うことがある。	2	2
	17 自分には、自分なりのよいところがあると思う。	2	2
	23 他人から好かれている方だと思う。	1	2
心身の状態	6 落ち込むことがある。	1	1
	13 おなかや痛くなったり、下痢をしたりする。	1	2
	19 頭が痛くなることがある。	2	2
	25 気分が悪くなることがある。	2	2
いじめ	7 友達から物を隠されたり、暴力を振るわれたりしてつらい思いをすることがある。	3	3
	26 友達から悪口を言われたり、無視されたりしてつらい思いをすることがある。	1	3

おける学級集団に 適応感	3	学級の中にいると、明るく楽しい気持ちになる。	2	2
	10	学級の人々と一緒に学校行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。	2	2
	16	この学級の一員でよかったと思うことがある。	1	1
	22	学級は、目標やルールが大切にされているので、安心して居心地よく過ごせる。	2	2

「いじめ」の項目から、いじめが、解消されたことを確認した担任は、日頃の観察から、Aさんは「友達との関係もよくなり、学級の中で居心地よく、楽しく過ごしている」と見取っていたが、ウィークポイントの「心身の状態」、「自己肯定感」、「学級集団における適応感」の観点がそれほど変化していない状況にも気付いた。そこで、副担任、養護教諭にAさんの個票を見てもらった。養護教諭からは、「学習意欲」、「教師との関係」がストロングポイントであることに注目し、ここを生かした支援ができないかとのアドバイスを受けた。副担任からは、「授業態度がよく、グループ活動では、自分から積極的に意見を言うことはない。」との情報を得た。担任は、ストロングポイントを生かすこと、Aさんに関わる人たちからの情報を生かすこと、複数でアセスメントすることの大切さに気付き、改めて学年でアセスメントし、Aさんの「見立て」を考えることにした。

【10月の見立て】

自分から積極的に活動することが少ないことが学級の所属感が低いことにつながっている。「学習意欲」が高いことから本人の頑張り認めつつ、学級全体でのよりよい人間関係づくりを進める。自己有用感を高めるために、活躍の場を設定する。

【今回の見立てのポイント】

- ・ Aさんに関わる教職員からの情報収集
- ・ 面談で気付いたことを整理
- ・ 学校での様子から分かったことを整理

Aさんへの担任の新たな「手立て」

- 時と場に応じた雰囲気づくりを大切にしながら、学習意欲について努力している姿勢を認め励ます。
- 「学校楽しいーと」を基にした教育相談を実施する。その際、ウィークポイントではなく、ストロングポイントに視点を当てた教育相談に心掛ける。できていることを認めて称賛する。

- 日頃できている係活動など、意図的に称賛し、「Aさんのおかげでみんなが助かるね。」といった声掛けをする。
- 学級のよりよい人間関係を促す構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等を計画的に実施する。

「学校楽しいーと」を実施した後は、速やかに処理をして、その情報に基づいて対応することが大切である。そのためには、学校・学年等の組織でアセスメントをして多面的・多角的に指導・支援方針を検討することが大切であり、「手立て」の有効性・妥当性を検証しながら、「学校楽しいーと」の結果を確認し、変容を理解する必要がある。2月実施のAさんの3回目の「学校楽しいーと」の結果は図4・表3のとおりであった。

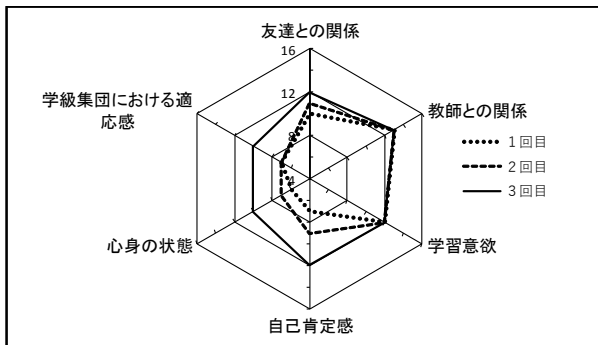


図4 比較用「学校楽しいーと」のレーダーチャート

表3 「学校楽しいーと」の下位項目

観点	質問	1回目	2回目	3回目
自己肯定感	4 委員会活動や係(当番)活動での自分の仕事は、みんなの役に立っていると思う。	2	3	4
	11 学校行事の計画や準備をやり遂げたとき、「よくがんばったなあ」「よくやったなあ」と思うことがある。	2	2	3
	17 自分には、自分なりのよいところがあると思う。	2	2	3
	23 他人から好かれている方だと思う。	1	2	2
心身の状態	6 落ち込むことがある。	1	1	2
	13 おなかが痛くなったり、下痢をしたりする。	1	2	3
	19 頭が痛くなるときがある。	2	2	3
	25 気分が悪くなることがある。	2	2	2
おける学級集団に 適応感	3 学級の中にいると、明るく楽しい気持ちになる。	2	2	2
	10 学級のみならず一緒に学校行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。	2	2	3
	16 この学級の一員でよかったと思うことがある。	1	1	2
	22 学級は、目標やルールが大切にされているので、安心して居心地よく過ごせる。	2	2	3
いじめ	7 友達から物を隠されたり、暴力を振るわれたりしてつらい思いをすることがある。	3	3	4
	26 友達から悪口を言われたり、無視されたりしてつらい思いをすることがある。	1	3	4

レーダーチャート、下位項目からウィークポイントであった観点項目がストロングポイントに変容していることが分かる。しかし、自己評価が「2」の項目も散見されるため、今後も計画的・継続的に個別の支援をすともによりよい人間関係づくりを図るための学級づくりを推進する必要がある。

4 検証改善サイクル(R-PDCA)に基づく指導・支援体制

いじめの早期発見・不登校の未然防止においては、客観的な指標として比較用「学校楽しいーと」を定期的実施し、アセスメントしていくことが大変有効になる。前述で示した事例のようにR-PDCAサイクル(図5)に基づいたいじめの早期解決や不登校の未然防止に向けて計画的に改善を図りながら、担当が一人で抱え込まない校内の支援体制づくりを進めていくことが大切になってくる。

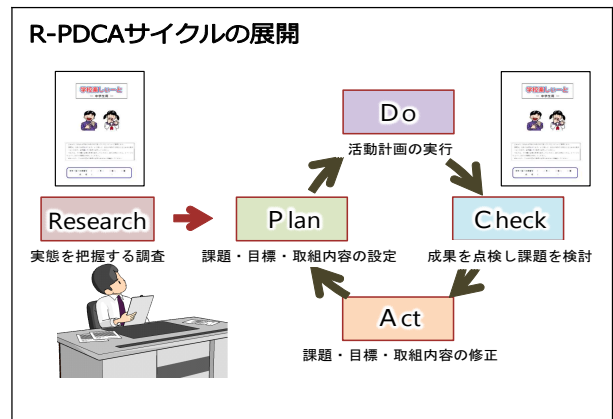


図5 R-PDCAサイクル

各学校においては、全ての児童生徒が自己の能力を十分に発揮し、楽しく通える学びの場にするために、比較用「学校楽しいーと」等を活用した児童生徒理解に基づく積極的な生徒指導を推進してほしい。

－参考文献－

- 県総合教育センター「不登校の未然防止と支援の在り方に関する研究－『学校楽しいーと』等を活用した児童生徒への対応－」平成27年 研究紀要
- 県総合教育センター「児童生徒の豊かな人間関係づくりに関する研究－SNS利用による友人関係への影響を通して－」平成29年 研究紀要

(教育相談課 瀧脇 広智)